



にんじんの花



Photo by
Hiroshi Takasugi

“子どもの好奇心と 「好きこそものの上手なれ」”

園長 高杉 洋史

A. 子どもたちは好奇心にあふれているようにみえます。
B. 親は子どもたちが好奇心にあふれているほうがいいと思っています。

ところで、大人は子どもたちの好奇心を伸ばしているでしょうか。

まずA. について考えてみました。

幼稚園の水槽のろ過機が止まっていることがある。ふたはかなり頻繁に水中に落ちていく。メダカの池に飼育ケースが水没している。職員室にシロツメグサやガザニアのかわいい花束が届く。教室や廊下にハチやムカデが出る。とすぐに教えるにやめる。アカテガニがよくいる場所の水路のふたはかなり重いのに動いている。確かに好奇心にあふれている子どもたちがたくさんいます。うれしいことです。園長の仕事が多量増えても、子どもの好奇心が育つほうが大切です。問題は、おもしろいことに気付かない子もいるかもしれないことです。おとなしくて大人の邪魔をしない、一見いい子に暮らしている子どもたちには大人の注意もおろそかになります。そんな子のためにニンジンやダイコンも花が咲き種ができるまでおいてあります。ひよこも次第に大きくなりかわいさが薄らいできました。が飼っています。自分で変化に気付いて感動してほしいと思っています。

B. についてはその通りと思っています。ほとんどでしょう。

さて、締め切り間際の書類をあたふたと書いている園長に、「えんちようせんせい、かにがしんでるよー」と声がかかりました。園長先生は書類のことはさておいてカニの水槽のお掃除に付き合います。

「これはトモグイだな」とか、「これは脱皮だよ」とか、カニのはさみに挟まれたらびつくりするくらいに痛いことを話しながら、天然ものを捕まえるときの注意もします。幼稚園だからできる子ども最優先の行動ですが、これが好奇心を育てる一番の要領だと思っています。また後で「を禁句にすることが子どもに好かれる、また話しかけてもらえる私の方法です。そして好奇心や注意力が育つことで、好きなこと、得意なことができるはず。好きなこと、得意なことは、努力も苦になりません。楽しみながら実力が上がっていきます。子どもが「これなあに？」とか「どうして？」と質問してくれるのも今のうちです。お仕事や家事は大切ですが、子どもの問いかけはもっと大切と思うことで、賢い子が育ちますよ。

